

お城だより

No. 9
2006.4.1



写真：福岡城跡（桜の風景）

のようにして育まれてきたのでしょうか。その要素はいろいろ挙げられます。古来より気候温暖で居住に適した地であり、博多湾に抱かれ大陸との交流が活発に行われた日本文化流入の窓口として発展してきた街であること等々です。そのつに現在の彼の地に福岡城が築かれたこと、即ちあの地を古代大陸との外交通商の拠点として選び、あるいは近世に至り城郭を築くにふさわしい地として選んだ先人の先見性が挙げられるのではないのでしょうか。鴻臚館当初は筑紫館は「存知のとおり奈良、平安時代に500年の間我が国の国際的交流の場、国立の迎賓館として活躍しました。遣唐使、遣新羅使がこから出国し、唐、新羅から来朝する使節の応接が行われ、唐や宋の中国商人達も来訪し、賑やかな応接が行われたことでしょう。これらの人々との文化交流、商取引によつて向かい側の博多の街も活気に溢れたと思います。鴻臚館はその歴史から消えていきますが、博多の街は中世時代我が国有数の国際港湾都市として発展していきます。鴻臚館が置かれたのは現在の平和台球場跡でありますが、当時は低い丘陵が南から延び、東も西も海が内湾のように入り込んでいたその丘陵の先端付近でありました。現在の天神も大名も海の中でした。そしてその土地に後世1601年（慶長六年）黒田如水、長政父子が大城郭を築き、地名を祖先の地に因み「福岡」と改めたのであります。城郭の候補地はいくつかあったようですが、結局博多に隣接したこの地を選んで福岡城を築いたことは、現在ふたご都市として福岡、博多両方の特色を持ち「自治都市」「元気都市」として発展している本市の原形がこの時作られたといつてよいでしょう。福岡藩黒田家はその後回の国替えも改易もなく、江戸幕府との適切な関係を維持し、福岡博多の学術文化産業の振興に努め明治維新を迎えます。明治以降各種の博覧会の実施、九州帝大の誘致等先人の先見的事業により本市発展の礎が築かれました。福岡市博物館はこのような二千年に亘る郷土福岡の歴史に関し、黒田家を始め市民の皆様の協力により多くの実物資料を収集、展示しております。どうか今後もこれら輝かしい福岡博多の歴史と民俗について研究し、子供たちに教え繋いでいく拠点として市博物館を活用していただきたいと願っております。



福岡市は今や人口140万人を数え、韓国や中国を始め国内外から多くの人々が行き交うアジアの交流拠点都市として発展を続けております。現在のこの街の活力は歴史的にはどの

鴻臚館、福岡城の研究の拠点に

福岡市博物館 館長 西 憲一郎

平成十八年度事業計画書(案)

一 事業実施の方針

鴻臚館や福岡城の復元を目指し、イベント開催、研究・啓発事業を通じ、福岡市の街づくり等観光促進のために取り組んでいきます。

二 平成十八年度事業予定

三 事業実施期間

平成十八年四月一日～
十九年三月三十一日

*平成十八年度事業計画書(案)につきましては、来る四月二十一日の理事会におきまして審議いただきまして正式に事業計画書となります。

平成十八年度事業

■観桜の宴

- ・実施予定日時 4月
- ・実施予定場所 福岡城跡
- ・従事者の予定人数 50人
- ・受益対象者の範囲 及び予定人数 市民3000人

■どんたく舞台

- ・実施予定日時 5月
- ・実施予定場所 福岡城跡
- ・従事者の予定人数 50人
- ・受益対象者の範囲 及び予定人数 市民3000人

■観月の宴

- ・実施予定日時 9月
- ・実施予定場所 福岡城跡
- ・従事者の予定人数 50人

・受益対象者の範囲

及び予定人数 市民3000人

■史跡探訪バスツアー

- ・実施予定日時 6回
- ・実施予定場所 福岡県内
- ・従事者の予定人数 3人×6回
- ・受益対象者の範囲 及び予定人数 市民40人×6回

■講演会の開催

- ・実施予定日時 3回
- ・実施予定場所 よみうりプラザ他
- ・従事者の予定人数 15人×3回
- ・受益対象者の範囲 及び予定人数 市民150人×3回

■機関誌発行

- ・発行予定 年4回
- ・発行部数 市民3000部×4回

「鴻臚館・福岡城を問う!」開催報告

平成十八年二月四日、読売新聞西部本社「よみうりプラザ」にて開催。快晴に恵まれたとはいえ冬の寒い中一五〇余名の参加者があり、天守閣を初めとする福岡城復元に市民の皆さんの熱い思いを感じました。講演は笹野桂子氏の今日の日程についての説明の後、石井幸孝氏の挨拶、岡部定一郎氏の司会で開始されました。鶴久氏が鴻臚館の前身である筑紫館における『万葉集』巻十五の天平八年(七三六)遺新羅使の歌を解説、榎本義嗣氏が福岡城下の橋大手門の復元状況を映像を使用しての説明、荻野忠行氏が石垣古画伯の福岡城大手門の実物絵画観賞について説明が行われました。下の橋大手門の石垣工事中の見学では榎本氏が説明、寒い中皆さんから熱心な質問がなされておりました。現場で柴田國彦氏が石垣から「丑」印のついたふたつの石を見つけていました。筑紫鴻臚館は今後も発掘を続行されます。参加者からの紙面による質疑の要は次の内容です。

防人から庶民までが古代において歌っている。当時の教養の程度または教養システムはどうだったのだろうか。二、赤坂地区のおこりとなった赤坂山は具体的に現在どこに位置する山を指すのでしょうか。三、江戸末期、明治初年頃の三〇〇石は今の金額に換算するとどの程度か。大組、中組、下級士族の生活についても知りたい。四、熊本城は着々と復元工事が進んでいます。福岡城も木造では是非復元工事を進めて欲しいと思います。五、古代に文法や使用する文字が定まっていたのか、漢字圏での古代日本語の成り立ちはどうなのものであったのか。

なかなか即答が出来ない質疑とされます。皆さんとともに考えていきたいと思えます。なお、二月十三日、「日本城郭協会」が会員の意見と建築の専門家で協議され「日本一〇〇名城」を発表しましたが、その一つに「福岡城」が選ばれております。中津城では黒田孝高時代の石垣復元がすすめられています。(荻野記)



福岡城下の橋大手門石垣修復中

「おいしいものをおとどけしたい」…私たちの願いです



味のめんたい

福太郎®

■お問い合わせ・ご注文は

0120-71-4444

FAX 0120-78-4444

URL <http://www.fukutaro.co.jp>

(株)山口油屋福太郎

〒815-8550 福岡市南区五十川1丁目1-1
TEL(092)482-0001 FAX(092)476-1717

●アサ9:00～ヨル6:00/●土・日・祝日は休みます。

福岡城のぼれ話

福岡城にゆかりの 三つの神社について

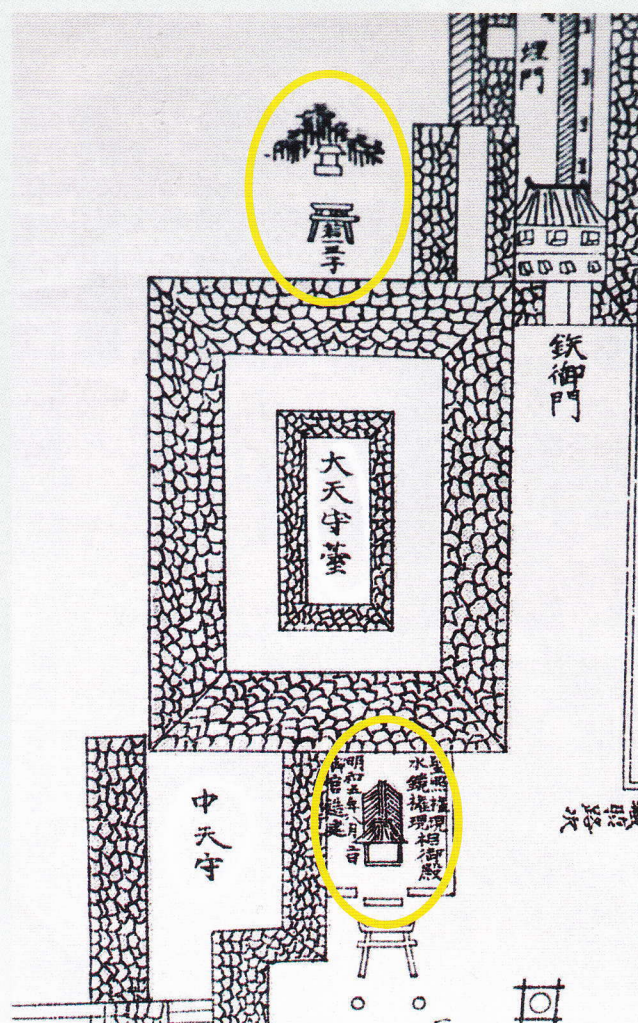
荻野 忠行

新しく築城される城の命名の由来については有名な和歌があります。如水が太宰府天満宮に仮寓している時、慶長七年（一六〇二）正月十六日に長政公等を招いて「夢想之連歌会」を開きます。その時の最初の歌に「ふく岡」（福岡）が見られます。

「松むめや末なかかれとみとりたつ山よりつくさとはふく岡」円清（如水）

博多古図でみますと福岡城築城以前の福岡の地には、「警固大明神」と「若王子社」という神社が描かれています。「光雲

神社」は描かれておりません。来年は光雲神社が西公園に遷座して百年にあたり現在寄附を求めておられます。「警固明神は、築城にあたり警固神社として、現在の天神に移築遷座されます。」由緒によりますと神功皇后が朝鮮半島に行くとき警固大明神が出現し軍船を守護されたので、帰国途中に感謝して神功皇后が建立されたと伝えられています。寄進も多く藩主忠之の産土神ともなります。ここには東照宮絵馬があり、大型の「東照宮模型」は現在市



（図1）福岡城天守閣聖照権現・水鏡権現→光雲神社



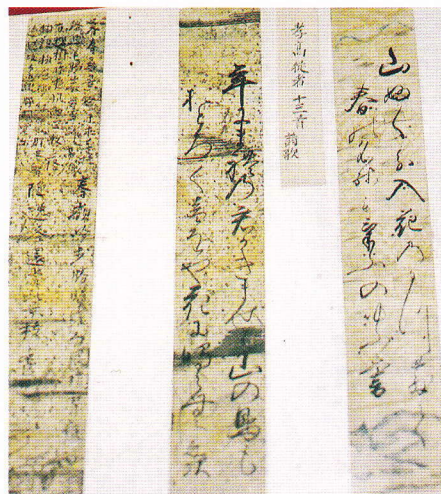
（図2）東照宮絵馬（警固神社）

教委で調査中です。

二 「若王子社」は移築されなく天守石垣のすぐ西側に鳥居と祠が残されます。これと類似の神社は熊野（和歌山県）に見られます。紀伊熊野（世界遺産指定）の信仰は後白河院の熊野権現熊野詣でとして全国的に十二世紀頃から信仰が高まっています。北九州でも求菩提山・宝満山・彦山などの山伏修験道が盛んになります。彼等の竈門山山伏は福岡城の若王子社にも必ず参詣し法儀を修しています。その時藩主が昆布をあげたと「黒田家譜」に記しています。円清如水が慶長年間中津城にいた頃家臣と共に、求菩提山の桜狩に行った時座主擗貴の亭にて詠まれた「和歌十三首」があります。これら家臣等の和歌は華麗な短冊に墨書されており護国寺跡（国玉神社）に残っていましたが、現在は「求菩提山資料館」で見ることが出来ます。その時

の如水の歌、
「山ふかく分入花のかつ散りて春の名残もけふのゆふ暮」円清

三 「光雲神社」は創立過程が独特で、他の二社とは異なります。明和五年（一七六八）に六代藩主継高が本丸天守台東側に社殿を建て、黒田長政を聖照権現と崇め、また安永二年（一七七三）黒田如水を水鏡権現と称し、共に合せ祭られました。（図1）しかし、厩造事件もあつて明治四年廃藩置県となり黒田家は東京へ移転されます。旧藩士や有志等は十一代藩主長溥へ拝謁して懇願し、この藩祖の神社を永遠に維持し奉りたいと願い出、長溥はその希望に同意します。明治五年、旧社地小島吉祥院跡（天神）へ奉遷し、両神号をもつて「光雲神社」と命名し、明治八年（一八七五）「県社」に昇格。その後荒津山は地域の人と県によって桜の樹等植樹し整備され、光雲神社は明治四十年（一九〇七）荒津山の東照宮跡西公園に遷座します。昭和二十年の福岡大空襲で惜しくも焼失しましたが、多くの人の寄附で昭和四十一年（一九六六）再建されました。



（図3）求菩提山資料館（右が如水歌）

新規会員名簿 (1/17/3/25入会分)

正会員 (個人)

中打稲 村越員 旭基大三 園安郎 山百真 崎田鍋 6名

一般会員 (個人)

石安 熊谷 橋西 登正重 佳直 豊志二 子郎行 太子由治 立吉山 山松松 藤石武本 永岡木 14名 英聰桂 栄龍延 浩男子 子人男 恵

更新会員名簿

正会員更新会員 (団体)

黒田奨学会 藤香会 博多きものさろう会 (株)山口油屋 福太郎 明るい町づくり協議会 (株)ブレネット (株)黒田屋

正会員更新会員 (個人)

母仁西末桑各緒 里田川岡原務方 忠辰芳 暉 世喜 一治泉 洋子 章子 西河鮎安 森養 東川武田原 13名 憲俊茂 清 昭 一郎也彦 蔵 守子

一般会員更新会員 (団体)

(株)近鉄ホテルシステムズ 博多都ホテル (株)天盞 (株)西日本新聞旅行

一般会員更新会員 (個人)

伊稻大尾小川後塩笹谷田鶴波中益 藤益山花野池藤野本口永川元田 紀真弘昭愛玲泰明佳満憲靖良 征 美四 里 一リ 子郎武人子子子子子秀公子朗工三子道子 39名 森堀深比長西高庄佐坂内上渡森牟真松松 永本沢嘉谷木山山藤本野田辺永田鍋永尾井 和光一義仁友義律俊泰順喜 和勝賢恵允亮 子乃夫永美世明子一秀子雄彊子則子博之佑

福岡青年会議所(JC)との交流会

福岡青年会議所では、二〇〇六年度の事業計画「夢動力ふくおか推進特別委員会」の事業として

①福岡城再建運動の調査、研究
②福岡城郭エリアの有効利用案作成
他六項目事業を推進中である。

福岡市民の会は、同じ目的をもち、事業を進めているJCの方々に交流の機会を申し入れ快諾、一月十七日(火)十三時読売プラザにおいて交流会の開催となった。

当日は、双方の自己紹介、事業の紹介、熱心に意見交換がなされた。短い時間では語り尽くせず、我々の毎週金曜日の例会にも顔を出していた多くの方々との交流が実現した。

JCより小池理事長、新開特別委員長ほか特別委員会の委員が出席された。当会は石井理事長、岡部事務局長ほか各部長が出席した。

三月二十六日はJC主催の勉強会(中央市民センター)に当会から理事長外6名が参加した。

NPO法人福岡市民の会(略称)初めて市議会本会議場にて紹介!!

平成十八年三月八日(木)午後一時より福岡市議会本会議場にて自由民主党を代表して、当会理事稲員大三郎市議のお力添えで打越基安議員が三回に亘って我々が希望し、使命としている鴻臚館と福岡城についての将来構想について、市当局に問いただして頂いた。福岡市側は教育委員会の植木とみ子教育長が答弁にあたった。

約一時間余にわたり質問と答えの応答がありましたがその中で市民のNPO活動として当会の活動も取り上げられた。特に、市当局と当会が共に協力して市民の資源として位置づけられている「歴史セントラルパーク」を活かして頂きたいと強調されて終わられた。

山崎市長外各助役局長に加えて全市議会議員の面前ではじめて正式に取り上げられた事実を傍聴席で拝聴し我々の使命感への大きな至近弾としてうけとめ、感謝しつつ議場のロビーで、両議員と面談し、我々の気持ちの一端をお礼を申し上げた。やがてその詳細も文書で表現されると思います。

西鉄バス停「大手門」を「福岡城大手門前」へ只今運動中

二月二十八日西鉄本社自動車営業局へ現在呼称している明治通り「大手門」のバス停呼称を「福岡城前」又は「福岡城前大手門」と変更出来ないものかと多くの資料を添えて陳情書を提出した。西鉄本社も丁寧に対応を頂き「前むきに考えます」との返事を頂いた。そうして更に次回のバスダイヤ改正等の折に、具体的に対応できたら...と夢のある答えでした。是非実現を祈ります。

福岡市観光サービスマン勉強会 一三〇名 鴻臚館・福岡城を勉強!

三月二十二・二十三日の二日間、福岡市の観光に係る関係のある各部署の人々に加えて、新しく第四次観光ボランティアを志す人々がわれわれNPO法人事務局関係者の研修を受けた。

編集後記

新年度の事業計画案も出来上がり、気持ちも新たに動き出しました。今、最大の課題は会員の拡大です。当会の活動の目的等が、即、会員皆様方のメリットにつながらないので、厳しい現状に直面しています。福岡市の街づくりの推進を掲げ、鴻臚館や福岡城の復元という、その道のりは遠いもので、なかなか簡単に取り組んで貰えない苦しさがあります。とはいえ、夢を持ち、実現に向けて「継続は力なり」と、事務局全員、事業推進に邁進いたします。市民の皆様の方ならぬご協力ご支援を心よりお待ちしております。

